

小児（辛夷清肺湯・黄耆建中湯）

難治性の両滲出性中耳炎に漢方薬が著効した1例



5歳の女児です。
平成30年2月に両滲出性中耳炎を発症しました。
耳鼻科を受診し通院中でした。
カゼをひくと鼻汁がノドの奥に流れて咳が出るし、
ご飯も食べにくそうです。
発熱なし、食欲・元気あり。



令和1年7月中旬に当院初診。
耳鼻科で処方された内服薬を続けていましたが、両側の滲出液がうまく抜けず、
聴力の低下を心配されている状態です。
慢性鼻炎、慢性鼻腔炎があるため、鼻汁、鼻閉を改善する目的で辛夷清肺湯
（しんいせいはいとう）、虚弱体質を治し、風邪をひきにくくする目的で黄耆
建中湯（おうぎけんちゅうとう）を開始しました。
8月に耳鼻科を受診し、両滲出性中耳炎は治っていないと言われました。
母親の判断で他の耳鼻科を受診し、セカンドオピニオンを求めました。
その医院では、いびき、扁桃肥大、アデノイド増殖症があるため、手術を
すすめられました。

漢方薬を内服して1ヶ月後に当院再診。
「辛夷清肺湯＋黄耆建中湯で鼻の通りが良くなった！」と。
漢方薬を内服して2週間経過した頃に、口から大きな痰のかたまりがゴボッと
出たそうです。
おそらく、鼻腔に詰まっていた痰がごっそり排出したものと考えられます。
その後、夜間は安眠できるようになりました。
この1週間後に市民病院の耳鼻科を紹介受診されました。
鼓膜の診察を受けたところ、
「鼓膜は石灰化しているが、滲出液は全くありません。手術の適応はなし」
お母さんはビックリかつ大喜びでした。
後日、当院にこの様子を報告に来てくれました。
その後は、カゼをひかなくなってきており、カゼをひいても鼻汁が出る
くらいで鼻閉も起きず、中耳炎になりません。
現在も辛夷清肺湯、黄耆建中湯を1日2回内服中です。

大人（桂枝茯苓丸加薏苡仁・温経湯）

季節によって漢方薬を変更する



47歳女性です。
不安神経症にて、平成28年から加味帰脾湯（かみきひとう）を内服中です。
既往歴：アトピー性皮膚炎
加味帰脾湯の内服を開始した頃から月経時にホットフラッシュが起こる
ようになり、桂枝茯苓丸加薏苡仁（けいしぶくりょうがんかよくいにん）を
追加しました。
桂枝茯苓丸加薏苡仁にてホットフラッシュが治まり、調子が良かったのですが、
秋冬になって皮膚が乾燥してくるとかゆくなってきます。
保湿剤も頻回に塗るようになります。
温経湯（うんけいとう）を試したところ、皮膚の乾燥が軽快しました。
それ以降、加味帰脾湯はそのままに、夏場は桂枝茯苓丸加薏苡仁、
冬場は温経湯を追加で内服する漢方薬を変更しています。
皮膚科疾患で漢方薬を使用している患者さんの中には、
上記のように皮膚の状態によって、季節ごと（大半は夏と冬）に
漢方薬を変更している方がおられます。



お知らせ

小児夜間急病センター当番日

12月30日（金） 19:30-22:30（受付） 場所：岐阜市民病院

年末年始の外来診療

12月28日（土）AM で外来を終了します。
来年は、1月4日（土）AM 外来を開始します。よろしくお願いいたします。

岐阜市の漢方外来 12月14日（土）、21日（土） 14:00-17:30

場所：中島小児科（岐阜県岐阜市鍵屋東町2-1）この外来は『院外処方箋』となります。